



つじ たけし
辻 剛志 君

生涯、活動を続けていきます！

ジュニアリーダー上級の活動をしている、16歳の辻君。納涼子ども会まつりでも活躍していました。
「年少の時、リーダーのお兄さんを見てあこがれたことが、自分もリーダーになりたいと思ったきっかけです。この祭りに向けて、僕たちリーダーは会合を7回開いて準備してきました。出し物は、お化け屋敷。全部、自分たちで企画・運営しています」と辻くん。さまざまな子ども会行事で、どうしても大人の協力が必要な場合は育成者の方にもお願いしますが、それ以外は自分たちですべて行っているそうです。子ども会の一番の魅力を尋ねてみると、「ほかの学校に通

第17回 納涼子ども会まつり

手稲地区の子ども会による「納涼子ども会まつり」が9月8日(日)に手稲コミュニティセンターで開かれ、たくさん子どもたちが遊びに来ました。お化け屋敷やヨーヨー釣り、金魚すくいなど遊びのコーナーのほか、かき氷や綿あめ、うどん・そばなどおいしい食べ物屋さんもいっぱい。大人気のお化け屋敷では、みんな、大きな悲鳴を上げながら楽しみました。



◀ 仲間のリーダーたちとおどけながら、「1足す1は一にいー！」。後列左から、辻君、田中瑛一君(16歳)、浅野望君(17歳)。前列は、小池藍香さん(17歳)。

っている友達や、年齢の異なる友達がいっぱいできることかな。とても楽しいですよ。僕がリーダー活動でいつも感じているのは、とにかくみんなを楽しませたいということ。だから僕は生涯、子ども会にかかわる活動を続けていきたいと思っています」と笑顔で語ってくれました。

も自分たちで作りました。

出来上がったグループから夕食です。元気良くご飯の歌を歌って「いただきます」。かまど作りから約二時間かけ、苦勞して調理した夕食は、もちろん全員「おいしいね」と大満足の出来でした。

楽しい食事の後は片付けです。食器のほか、焦げついてしまった飯ごうや鉄板などを洗います。この「カッコウの森」には水道管が通っていないため、水はタンクにためられたものを使用します。子どもたちは、タンクの水の残量を目盛りで確かめながら、限られた量の水を大事に使い、水の大切さも学んでいました。

就寝の時間がやってきました。テントで寝袋を使って寝るのも貴重な楽しい体験です。

研修二日目の七月三十日。昨日に引き続き、自分たちで食事を作ります。今日の昼食はカレーうどん。小麦粉をこねて、うどん作りにも挑戦しました。

夜は、いよいよお待ちかねのキャンプファイアーです。静まり返った森の中、おごそかに火をともし儀式をしました。その後は、燃え上がるキャンプファイアーを囲んで歌ったり踊ったりして、とても盛り上がりました。

七月三十一日。あつという間に

キャンプの最終日です。キャンプ場を片付け、泊まっていたテントをきれいに清掃します。そして、最後にグループの友達と一緒に、思い出アルバムを作りました。

先輩リーダーたち、大学生や大人の育成者に陰で支えられながら、仲間と協力し合って過ごした二泊三日のキャンプ研修。遊びを通じてキャンプの技術をしっかりと身に付けた子どもたちは、一回りも二回りも成長したように感じられました。

子ども会に参加してみませんか

キャンプやお祭りなど楽しい行事が満載の子ども会。たくさんの子がねっ子たちが子ども会ですてきな思い出を作っています。ぜひみなさんも地域の子ども会活動に参加してみませんか。大人の方も子どもたちを支える育成者として参加することができます。また、お住まいの地域に子ども会がなく、新しく子ども会を結成したいという場合はお問い合わせください。

《詳細》札幌市子ども会育成連合会
手稲事務局 ☎ 2400内線541・542